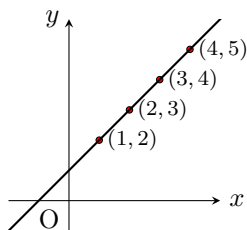


点の座標 $(1, 2), (2, 3), (3, 4), (4, 5), \dots, (x, x+1), \dots$
 これらを座標平面上に並べると、直線になる。

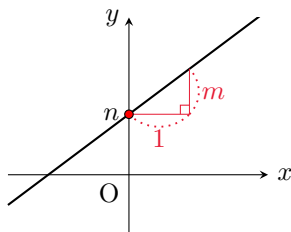


これらの点の y 座標は $x+1$ と表すことができるので、

$$y = x + 1$$

という方程式で表すことができる。逆に、この方程式は、この直線上の無数の点の集合を表すことができる。

中学校では直線の方程式は $y = mx + n$ と学んだ。
 これは、 y 切片が n 、傾きが m の直線である。



次のような式も直線の式である。

$$ax + by + c = 0$$

● $a \neq 0, b \neq 0$ のとき、

$$by = -ax - c$$

$$y = -\frac{a}{b}x - \frac{c}{b}$$

これは、 y 切片が $-\frac{c}{b}$ 、傾き $-\frac{a}{b}$ の直線である。

● $a = 0, b \neq 0$ のとき、

$$by = -c$$

$$y = -\frac{c}{b}$$

これは、 x 軸と平行な、高さが $-\frac{c}{b}$ で一定の直線

● $a \neq 0, b = 0$ のとき、

$$ax = -c$$

$$x = -\frac{c}{a}$$

これは、 $x = -\frac{c}{a}$ を通る垂直な直線である。

例 1 次の直線を座標平面に描きなさい。

(1) $2x - 3y + 3 = 0$

(2) $3y - 5 = 0$

(3) $2x - 3 = 0$

問 1 次の直線を座標平面に描きなさい。

(1) $3x + 5y - 5 = 0$

(2) $3x + 5 = 0$

(3) $4y - 3 = 0$

